



EXCITING DUATHLON GRAND PRIX CalfMan Japan



森 正（三重県協会）底力を見せ開幕戦圧勝！

カーフマン JAPAN 2006 グランプリの第1戦、近畿ステージが11月12日、グリーンピア三木にて開催された。



第1ランは大会直前に1周1kmの周回コースに変更になり、よりアップダウンの激しいコース設定となった。スタートから先頭を引いたのは、九州の雄・飯干守道（ウィングスTC）。箱根駅伝の経験を持つ飯干の引っ張りに、序盤から縦長の展開になる。前半は、この飯干に、ランキングチャンピオン森正（三重県協会）、実力者・高橋泰夫（Team CW-X タカイワ染工）がついて行くも、3周目あたりから、高橋が徐々に遅れ始め、2人のマッチレースの様相に。結局2人は3位の高橋以下に30秒以上の

差をつけてバイクへと移る。

1周4.85kmのテクニカルなバイクコースで、まず飛び出したのは昨年このコースを制している森。コースを熟知している森はラップタイムを徐々にあげ、ただ一人8分を切る好タイムで独走態勢を築く。バイクだけで2位飯干に2分以上の大差をつけた森は、得意の第2ランでも安定した力を見せ、危なげなく大会2連覇を果たすとともに、シリーズチャンピオンと2連覇へ向けて幸先の良いスタートを切った。



一方、エリートに先立って行われた女子のレースは、18歳の高島陽香（team JFK）が第1ランから積極的にレースを引っ張ったが、バイクに入ると、第1ラン3位につけていた久保田早紀（チームテイケイ）が底力を発揮、一気に先頭に立つと、55分41秒というエリート男子顔負けのラップタイムで独走。そのまま第2ランもラップ1位の快走をみせ、カーフマンシリーズ初出場、初優勝を果たした。

